

## 北海道で生態捕獲されたシロマダラ (*Dinodon orientale*) の糞内容について

更科 美帆<sup>1</sup>・本田 直也<sup>2</sup>・徳田 龍弘<sup>3</sup>・庄子 信行<sup>4</sup>・寺島 淳一<sup>5</sup>・吉田 剛司<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地 酪農学園大学大学院野生動物保護管理学研究室

<sup>2</sup> 064-0959 北海道札幌市中央区宮ヶ丘3番地-1 札幌市円山動物園

<sup>3</sup> 061-2303 北海道札幌市南区定山溪温泉西2丁目45-1-306 ばいかだ WILD-PHOTO

<sup>4</sup> 003-0028 北海道札幌市白石区平和通2丁目南6-31 Wild Words

<sup>5</sup> 001-0017 北海道札幌市北区北17条西1丁目1-3末永ビル 株式会社地域環境計画

### Fecal contents of *Dinodon orientale* in Hokkaido

By Miho Sarashina<sup>1</sup>, Naoya Honda<sup>2</sup>, Tatsuhiko Tokuda<sup>3</sup>,  
Nobuyuki Shoji<sup>4</sup>, Jyunichi Terashima<sup>5</sup>, and Tsuyoshi Yoshida<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Laboratory of Wildlife Management, Rakuno Gakuen University, Midorimachi 582, Bunkyo-dai, Ebetsu-shi, Hokkaido 069-8501, Japan

<sup>2</sup> Sapporo-Maruyama-Zoo, Miyagaoka 3-1, Chuo-ku, Sapporo-shi, Hokkaido 064-0959, Japan

<sup>3</sup> Baikada Wild-photo, Jyozankei onsen nishi 2-45-1-306, Minami-ku, Sapporo-shi, Hokkaido 061-2303, Japan

<sup>4</sup> Wild Words, Heiwadori 2 South 6-31, Shiroishi-ku, Sapporo-shi, Hokkaido 003-0028, Japan

<sup>5</sup> Regional Environmental Planning Inc, Suenaga Bld. North 17 West 1-1-3, Kita-ku, Sapporo-shi, Hokkaido 001-0017, Japan

### 序 文

本州においては過去にシロマダラ (*Dinodon orientale*) の食性に関する調査研究がいくつかなされており (美濃部, 1931; 柴田, 1968; 丹, 1960; 鳥羽他, 1983), トカゲ類を主に捕食することが知られている (Mori and Moriguchi, 1988). 北海道においてシロマダラの発見例は少なく (徳田, 2010), その生態については不明な点が多い. しかし2011年6月に石狩市にて相次いで2個体のシロマダラが捕獲され (徳田他, 2012), 現在, 札幌市円山動物園にて飼育管理されている (徳田・本田, 2012). これにより今後シロマダラの生態に関する新たな知見の確認が期待される.

本研究では, 石狩市にて捕獲された2個体のシロマダラが捕獲後すぐに排泄した糞について解析したので報告する.

### 調査方法

石狩市にて捕獲されたシロマダラは, 2011年6月26日に捕獲された体長62.0 cmのメスと2011年6月30日に捕獲された体長34.0 cmのオスである. 2個体がそれぞれ捕獲後すぐに排泄した2つの糞を顕微鏡にて調べた. 2つの糞はFecal.1 (F1), Fecal.2 (F2) と区別した.

### 結 果

F1には有鱗目の体の一部と6枚の鱗片, 3個の卵が含まれていた (図1). 検出された体の一部と鱗片にはキールがないことから, ニホントカゲ (*Plestiodon japonicus*) であると想定される. 卵は長径が14~15 mmほどであった. また3個の卵のうち2個は中身が消化され萎んだ卵殻のみの状態であった

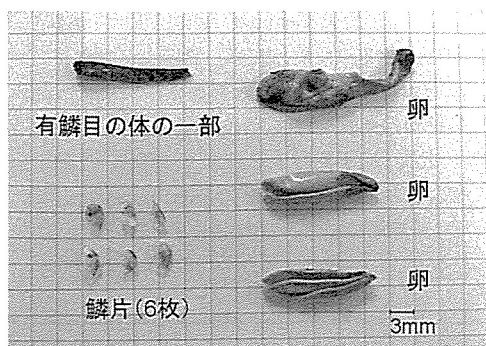


図1. F1の内容物. 有鱗目の体の一部, 鱗片6枚, 卵3個が含まれていた(升目は一辺3mm).

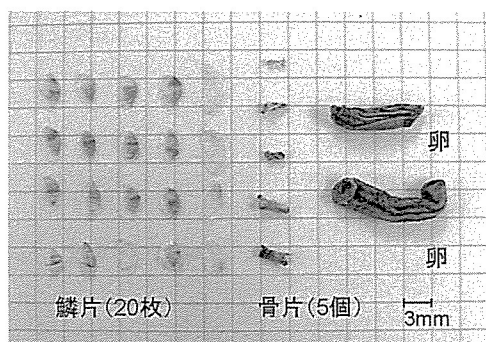


図2. F2の内容物. 鱗片20枚, 骨片5個, 卵2個が含まれていた(升目は一辺3mm).

が, 残りの1個は卵殻に肉片のようなものがついた状態であった。

F2には20枚の鱗片と5個の骨片, 2個の卵が含まれていた(図2)。鱗片がF1に含まれていたものと同様にキールがないことから, 骨片も含めニホントカゲのものであると想定される。卵は長径が10~15mmほどであった。

ニホントカゲは6月ごろに石の下などに巣穴を掘り, メスは長径約11mm, 短径約8mmの卵を6~15個産卵し孵化するまでの間世話をする(Hikida, 1981)。2個体のシロマダラはいずれもニホントカゲの生息が確認されている場所で, ニホントカゲの産卵期である6月下旬に捕獲されていることから, 糞内容から検出された卵はいずれもニホントカゲの産卵後の卵であると考えられる。

## 考 察

本研究により, シロマダラは北海道においても本州と同様にトカゲを捕食していることが判明した。

三重県内での研究によると, 7月下旬に捕獲した全長62.7cmのシロマダラのメスの胃内容から妊娠中のトカゲのメスが検出されていることから(丹, 1960), 当該シロマダラ2個体も妊娠中のトカゲのメスを捕食したとまず考えられる。しかし丹(1960)によると, 捕食されていたトカゲのメスは長径9mmの卵を7個も体内に宿していたことが解剖の結果判明しており, 本研究の結果とは大きく異なる。本研究の場合, 仮に妊娠中のニホントカゲのメスをシロマダラが捕食し, 親が先に消化され親の体内にあった卵が消化途中のまま排出されたと考えても, 排出された卵殻のサイズと数が合致しない。これらのことから, 今回捕獲された2個体のシロマダラは野生状況下において, 獲物であるニホントカゲを求めて巣穴に入り, 巣穴で卵の世話をしていたニホントカゲのメスを捕食し, その際に卵を数個捕食したのと考えられる。

シロマダラがトカゲ類の卵そのものを捕食した報告例はこれまでになく, 今回の結果はシロマダラの生態を知る新たな一歩になると推測する。

## 謝 辞

本報告にあたり, (一財)自然環境研究センターの戸田光彦氏には既存文献をご紹介いただきました。深く感謝申し上げます。

## 引用文献

- Hikida, T. 1981. Reproduction of the Japanese Skink (*Eumeces latiscutatus*) in Kyoto. Zool. Sci. 90: 85-92.  
 美濃部照. 1931. シロマダラの話. アミーバ 3 (3): 53-58.  
 Mori, A. and H. Moriguchi. 1988. Food habits of the snakes in Japan: A critical review. Snake 20: 98-113.  
 柴田敏隆. 1968. 三浦半島の爬虫類相. 横須賀市

- 博物館研究報告 (自然科学) 14 : 95-102.
- 丹 信 實. 1960. シロマダラ *Dinodon orientale* (Hilgendorf) の新産地と其の生態に関する考察. 研究論集 4 : 89-94.
- 鳥羽通久・森ロー・堺淳・菅野宏文・宮田均. 1983. 栃木県西部の爬虫類. Snake 15 : 43-47.
- 徳田龍弘. 2010. 2009年現在北海道で確認されているシロマダラ (*Dinodon orientale*) の記録について. 爬虫両棲類学会報 2010 (1) : 35-37.
- 徳田龍弘・本田直也. 2012. 北海道産シロマダラ (*Dinodon orientale*) の産卵孵化について. 爬虫両棲類学会報 2012 (1) : 6-9.
- 徳田龍弘・庄子信行・寺島淳一. 2012. 北海道で確認されたシロマダラ (*Dinodon orientale*) 続報. 爬虫両棲類学会報 2012 (1) : 2-6.